

平成29年8月25日

各報道機関 御中

山梨大学

## 大学院博士課程の組織改編について ～農学分野を含む専攻の新設など～

山梨大学では、地域社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした大学院博士課程に改編するため、平成30年度から新たに農学分野（生命農学コース）を含む「統合応用生命科学専攻」を設置することについて、設置計画書を提出していたところであり、今般、大学設置・学校法人審議会\*において設置が認められましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、別紙資料を参照願います。

(問い合わせ先)

山梨大学 企画課

TEL : 055-220-8015、8357 FAX : 055-220-8799

(広報担当)

山梨大学 総務部総務課広報企画室

TEL : 055-220-8005 FAX : 055-220-8799

## 大学院博士課程の組織改編について ～農学分野を含む専攻の新設など～

山梨大学では、地域社会のニーズを踏まえ、本学の特色を生かした大学院博士課程に改編するため、平成30年度から新たに農学分野（生命農学コース）を含む「統合応用生命科学専攻」を設置することについて、設置計画書を提出していたところであり、今般、大学設置・学校法人審議会において設置が認められました。新専攻では修士課程と同様に従前の医工に農学を加え、医工農の分野横断的な教育を展開いたします。

また、これと併せ従来の医学系2専攻、工学系3専攻を廃止し、「医学専攻」、「工学専攻」をそれぞれ1専攻に改組することも認められました。

### 〔博士課程組織改編の概要〕

#### ・「統合応用生命科学専攻」（融合分野）

農学学位を授与する生命農学コースを新設するとともに、生命医科学コースと生命工学コースに再編します。諸学融合の理念の下、「生命科学」を学術の基盤として、生命現象を分子、細胞、組織及び個体の各レベルで理解させ、「健康」をキーワードに、医工農の3コースが連携し諸学融合教育を展開します。

#### ・「医学専攻」（医学系）

2専攻を1専攻に再編し、臨床と基礎で協働しトランスレーショナルリサーチ志向に対応した教育を展開します。

#### ・「工学専攻」（工学系）

3専攻を1専攻に再編し、幅広い知識を身に付け且つ専門教育を深める3コースを導入するとともに、時代のニーズに対応できる体系的な教育を展開します。

## ■ 統合応用生命科学専攻の概要

### ○設置の趣旨および人材育成目標等

生命環境学部、生命環境学専攻（修士課程）に接続する専攻であり、**山梨県で初めての農学系を有した大学院博士課程**で、ワインや発酵工学など本学の強みを活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成します。入学定員は10人で設定しており、「**生命農学コース**」、「**生命医科学コース**」、「**生命工学コース**」の3つのコースを設けております。

#### 生命農学コース 募集人員：2人

「発酵・食品」に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成します。

#### 生命医科学コース 募集人員：6人

疫学や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人材を養成します。

#### 生命工学コース 募集人員：2人

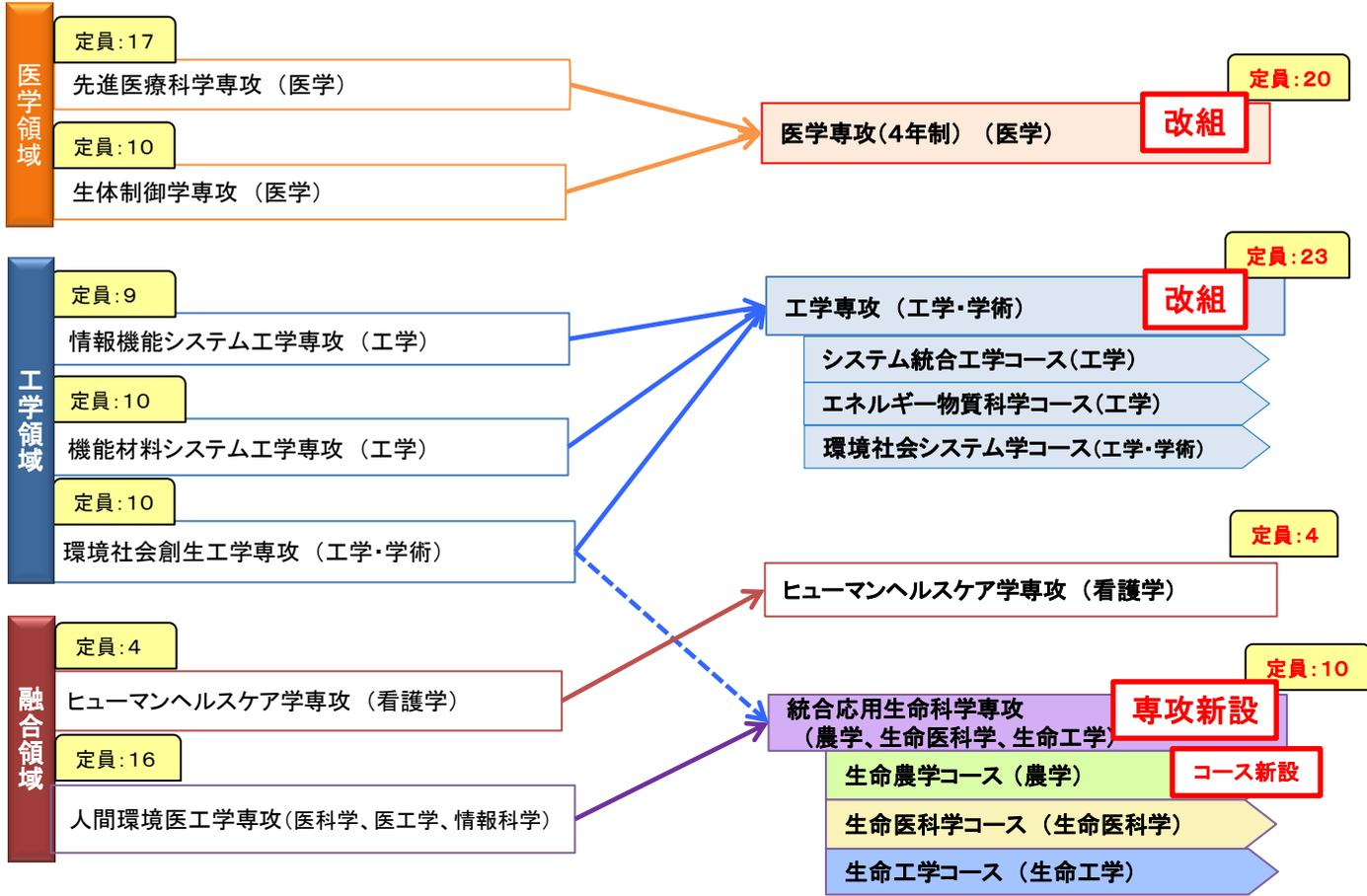
発酵工学や周辺の学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成します。

# 山梨大学大学院 博士課程 組織移行表

現行:7専攻、定員76



改組後:4専攻、定員57



( )は付与する学位名称

# 山梨大学大学院医工農学総合教育部(博士課程) 統合応用生命科学専攻〔H30設置予定〕

## 設置の趣旨・背景

- 「食と健康」は人類の普遍的な課題。「地方創生」が重要施策とされる中、本県主要産業の農業の活性化は重要な課題
- 農学系組織（H24年度生命環境学部、H28年度修士課程生命環境学専攻）を新設、これに接続する博士課程が必要
- 医工農融合教育(諸学融合)を牽引する中心的な組織として、統合応用生命科学専攻(博士課程)の設置は不可欠
- 強みや特色（発生工学、先端脳科学、ワイン科学、応用微生物学等）を博士教育に展開し、それら通じ大学機能を強化

## 統合応用生命科学専攻（入学定員：10名、専任教員：34名）の特色等

### 〔人材養成像〕

医工農の3分野を俯瞰する視野を持ち、各分野の知識と技術を「統合・応用」して技術革新を行い、人類にとって最も普遍的な価値をもつ「健康」に関する課題に対して複数の解決策を見だし、社会の発展及び人類の福祉に貢献する高度専門職業人や研究者を育成



- 「生命科学」を学術の共通基盤とし、生命現象を分子、細胞、組織及び個体の各レベルで理解
- 「健康」をキーワードに、医工農の3コースが連携し諸学融合教育を展開

### 生命農学コース

「発酵・食品」に関連する複数の学問分野の高度な知識と技術を修得し、食と健康及び環境に関連する産業分野で活躍できる人材を養成

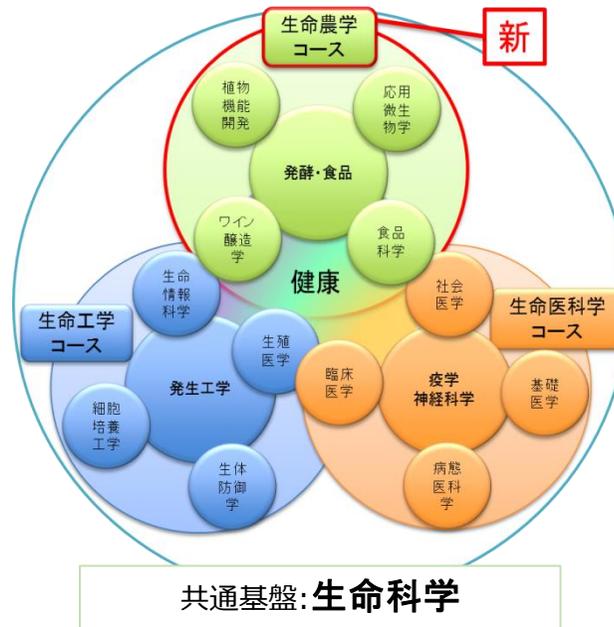
### 生命医科学コース

疫学や神経科学等の高度な専門知識と技術を身に付け、コメディカルなど医療機関等で活躍できる人材を養成

### 生命工学コース

発生工学や周辺の学問分野を含む高度な生命工学の技術と知識を修得し、生殖補助医療、再生医療やバイオ関連産業で活躍できる人材を養成

### 〔教育課程の概念図〕



「健康」に関する理解を深める為に専攻共通必修科目として「統合応用生命科学特論」及び「ヘルスサイエンス特論」を設定。また、コース専門科目の分野横断的な履修が可能。

### 〔特色〕

- ・ライフスタイルの多様化や食のグローバル化に向けた食品開発など、成長分野の食品産業界における高機能化や海外展開に対応。
- ・ワインは山梨県の地域産業を牽引。国産ワインの生産・消費量が年々増加するなど成長が著しい分野。高品質化には博士レベルが必須であり、ブランド化やグローバルスタンダード化の推進に対応。
- ・大村博士(2015ノーベル賞)に代表される応用微生物学分野は、食品保存・衛生管理、環境浄化・排水処理、創薬等、多岐のニーズに対応。
- ・不妊治療の増加に伴う生殖補助医療産業における胚培養士のニーズの高まりに対応。また、今後大きく成長する再生医療産業を担う臨床培養士の育成に対応。



ワインや発生工学など強みや特色を活かした教育を展開し、地域に貢献でき、グローバルに活躍できる人材を養成。これらを通じ大学機能を強化

